

実施年度 : 2024 (2025 入試) 年度

試験日 : 2024 年 9 月 7 日

入試種別 : 大学院 (修士課程) 入学試験問題

学部・研究科 : 文学研究科 真宗学専攻

科目名 : 専門科目

【解答又は解答例】

1

(1) それおもんみれば、信樂を獲得することは、如来選択の願心より発起す。真心を開闡することは、大聖矜哀の善巧より顕彰せり。しかるに末代の道俗、近世の宗師、自性唯心に沈みて浄土の真証を貶す、定散の自心に迷ひて金剛の真信に昏し。ここに愚禿釈の親鸞、諸仏如来の真説に信順して、論家・釈家の宗義を披閲す。広く三經の光沢を蒙りて、ことに一心の華文を開く。しばらく疑問を至してつひに明証を出す。まことに仏恩の深重なるを念じて、人倫の喩言を恥ぢず。浄邦を欣ぶ徒衆、穢域を厭ふ庶類、取捨を加ふといへども毀謗を生ずることなかれとなり。

(2) 解答例：さて、よくよく考えてみると、信心を得ることは、阿弥陀如来が選り取られた本願の心よりおこるのである。その真実信心を広く明らかにすることは、大聖釈尊の哀れみの心からの善い導きによって彰かに説き示されたのである。しかし、末世の出家者や在家者、また近頃の宗師たちは、仏も浄土もわが心の内のものという思いにとらわれて浄土真実の証果をそしり、また定善と散善の自力の心に迷わされて、決して壊れることのない真の信心の教えに昏いのだ。

(3) 当該問題は、受験生の今後の研究に必要となる専門分野に関する知識を問うものである。解答が一義的でなく解答例の提示はなじまないことから、採点のポイントを示す。

採点は以下の点を踏まえて総合的に評価する。

- 設問の指示に従い回答していること。
- 回答において「一心の華文」が天親菩薩（世親）の『浄土論』（『無量寿経優婆塞持戒生偈』）を指していることが記されていること。
- 回答において親鸞の『浄土論』の「一心」についての解釈を、その著作に基づいて論じていること。
- なお不適切な語彙の使用や、誤字、脱字は減点を行う。

(1) 舍利弗、なんぢが意においていかん、かの仏をなんのゆゑぞ阿弥陀と号する。舍利弗、かの仏の光明無量にして、十方の国を照らすに障碍するところなし。このゆゑに号して阿弥陀とす。また舍利弗、かの仏の寿命およびその人民も無量無辺阿僧祇劫なり。ゆゑに阿弥陀と名づく。舍利弗、阿弥陀仏は、成仏よりこのかたいまに十劫なり。

(2) 解答例：どうしてその仏を阿弥陀と名づけるのだろうか。舍利弗よ、その仏の光明は無量であり、すべての仏の国々を、何ものにもさまたげられることなく照らしている。それで阿弥陀と名づけるのである。また舍利弗よ、その仏の寿命もその仏国の人々の寿命もともに、はかり知れず限り、数えきれないほど長い。それで阿弥陀と名づけるのである。

(3) 仏説阿弥陀経

(1) 二つに還相の回向といふは、すなはちこれ利他教化地の益なり。すなはちこれ必至補処の願より出でたり。また一生補処の願と名づく。また還相回向の願と名づくべきなり。『註論』に顕れたり。ゆゑに願文を出さず。『論の註』を披くべし。

(2) 解答例：二つに、還相の回向とは、衆生を教え導き救済する他力のはたらきである。

これは必至補処の願（第二十二願）より出できたものである。この願は、また、一生補処の願と名づけられる。また還相回向の願とも名づけられるべきものである。これは『往生論註』に顕らかにされている。ゆえにここではその願文を出さない。『往生論註』を参照するとよい。

(3) 当該問題は、受験生の今後の研究に必要となる専門分野に関する知識を問うものである。解答が一義的でなく解答例の提示はなじまないことから、採点のポイントを示す。

採点は以下の点を踏まえて総合的に評価する。

- 設問の指示に従い回答していること。
- 回答において「還相」（「還来穢国の相状」）の語義が説明されていること。
- 回答において、親鸞が「回向」の主体を阿弥陀仏とした解釈を示していることを、その著作に基づいて論じていること。
- なお不適切な語彙の使用や、誤字、脱字は減点を行う。